

別紙

令和 7 年 11 月 26 日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長

桑畠 伴子 様

議会報告会 3 班

おだぎり たかし

小沢 えみり

清水 大

桑畠 伴子

近藤 みほ

森田 洋一

中村 彰男

第 25 回議会報告会（第 2 部）の概要は下記のとおりでしたので、報告します。

記

1 概要

第 2 部では交通・防災・環境・地域活動など多岐にわたる意見が寄せられた。市民の声を真摯に受け止め、今後の審議や政策提案に反映していく。以下テーマごとに記す。

（1）議会広報に関する意見

市民意見

議会だよりについては、他自治体では二次元コードを活用し、紙面では伝えきれない情報をウェブで補完している例が多い。流山市でも導入を検討してはどうか。

また、議会クイズなど、市民が興味を持てる仕掛けも有効と考える。

議員意見

二次元コード導入の背景には、紙面制約の中で詳細を伝える工夫があると理解した。

他自治体の良い取り組みは積極的に参考にしていきたい。

（2）現場・地域課題に関する意見

市民意見

以下の5点について改善を求める。

1. 消防署移転後も、旧消防署前の道路に「停車禁止」の表示が残っている。
2. 円頓寺付近（愛宕山との境界）の樹木が道路を覆い、電柱にも接触して危険である。
3. 南流山の公園における桜の倒木伐採について、議員こそいち早く気づくべきではなかったか。
4. 東深井地区で30km規制にもかかわらず車の暴走が目立つ。
5. 都市計画税の誤徴収問題（40年間誤りがありながら20年間のみ返還）は説明・謝罪が不十分である。

現場を自らの目で確認し、課題を早期に把握してほしい。

議員意見

貴重な御指摘を感謝する。議員は万能ではないため、市民との情報共有を通じ、気づいた人が迅速に対応できる体制が望ましい。

（3）道路・交通に関する意見

市民意見

- ぐりーんバス等について、高齢者割引運賃（90円）の実施について、担当課は「補正予算で対応可能」と回答していたが、議会を通さずに支出できるのか疑問。
- 運転手不足により便数が減少し、市民の不便が増している。
- 新消防署前の丁字路に右折信号がなく危険。署名運動までしなければ改善されないので。

議員意見

- ・ 高齢者運賃の件は議会でも要望があった。妥当な補正予算として議決が通っている。
 - ・ 信号機設置は警察の所管であり、市では権限を有していない。県全体でも年間新設数は限られている（10に満たない）。一方で危険箇所の情報提供をお願いしたい。
 - ・ 右折レーンがない交差点では設置が難しく、交差点改良を含めた検討が必要である。
-

（4）インフラ・治水に関する意見

市民意見

三輪野山一丁目地区では、U字溝の深さが不均一で大雨時に水があふれる。新興住宅地だけ整備が進むのは不公平ではないか。

議員意見

当該地域はまだ比較的新しい地域だが、地盤特性を踏まえた整備も必要。治水状況は改善しているが、地域の歴史的背景も理解しながら検討したい。

（5）環境・喫煙所の整備

市民意見

決算審査特別委員会での全会一致要望に「受動喫煙防止のための喫煙所設置」が含まれていた。白井市のように具体的な整備を進めるべき。

議員意見

議会としても全会一致で設置を求めており、今後も実現に向けて要望していく。

（6）観光・施設利用

市民意見

- ・ 南流山から流山本町までのシェアサイクルは便利だが、流山本町の某店舗前の歩道上げ下げが困難。停輪場所の改善を希望。
- ・ クリーンセンター併設の温浴施設（下花輪）は安価で良い

が、宣伝をもっとしてほしい。

議員意見

- ・ シェアサイクルは市民要望から導入されたものであり、課題として共有する。
 - ・ 温浴施設は設置 20 年を経て維持管理が課題。利用増による設備負担も考慮が必要。
-

(7) 新技術・社会実験

市民意見

鉄道で顔認証システムの実証実験が行われている自治体もある。流山市でも導入・支援できないか。

議員意見

タッチレスゲートなどの実証実験は今後可能性がある。ただし、流鉄など歴史的資産も併せて大切にしていく視点も必要。人口密度の高い地域では社会実験の候補地として企業側の要望も多い。

(8) ごみ収集・災害対応

市民意見

ごみ収集車の作業員が「台風時も収集を続けるのか」と心配していた。実際の対応を知りたい。

議員意見

災害時は作業員の安全を最優先とし、危険な場合は中止するのが原則。災害対応マニュアルに基づく運用を確認する。

(9) 防災・ハザードマップ

市民意見

防災マップ更新により自宅地域が内水氾濫区域に指定され不安。八潮市の事故を踏まえ現状を知りたい。

議員意見

内水ハザードマップは過去の浸水実績を示すもので、現在の整備状況とは必ずしも一致しない。

雨水管改修などでリスクは軽減しているが、絶対安全とは言えな

い。地域での防災組織の強化も重要。

(10) 自治会・地域コミュニティ

市民意見

自治会離れが進んでいる。ごみ当番などで不公平感がある。
ぐりーんバスが使いづらく、買い物・通院が困難な高齢者も多い。
地域で車を運行できる仕組みを検討してほしい。

議員意見

自治会では星空観察会や旅行など、楽しい活動を増やすと参加率が上がる。

共働き世帯も多い中、無理なく参加できる工夫が必要。

オンデマンドバスなどの仕組みは今後の研究課題。高齢者の外出支援策と併せて検討する。

(11) その他

市民意見

南流山はハザードマップ上で浸水地域となっている。周知をどのように進めているか。

議員意見

ハザードマップは注意喚起を目的とするもので、地域を危険と断定するものではない。

市民の命と財産を守るため、冷静な情報提供と理解促進に努めたい。

2 所感

○小沢えみり議員

今回の議会報告会では、交通・防災・環境、地域コミュニティなど、日頃の生活に直結する多くの御意見をいただき、市民の皆さまが日常の中で感じている課題の大きさを実感しました。私自身、議員として現場に足を運び、変化に気づき、早期に課題を共有していく姿勢の重要性を強く認識する時間となりました。

特に、道路や公共交通、治水に関する御指摘は、生活の安全と

利便性に直結するものであり、地域ごとに抱える課題の違いを丁寧に理解した上で、市と連携しながら改善につなげていく必要性を感じました。また、自治会や地域コミュニティの参加率低下に関する御意見では、自治会がどのような活動をしているのかの周知や、誰もが参加しやすい魅力づくりの視点が求められていると受け止めました。

議会として、そして私自身も、いただいた声を単なる課題の列挙で終わらせるのではなく、次の議会審議や政策提案に確実に活かしていくことが責務だと考えています。市民の皆さんとの対話をこれからも大切にしながら、努めてまいります。

○清水大議員

参加者の方から多くの御指摘を頂いた。私が住むエリアに関する指摘もあった。東深井から江戸川台東4丁目を抜け江戸川台小学校に至る道路の交通状況についてである。当該道路は通学路の為、時速30kmに制限されているが、明らかに速度オーバーしている車が多く、非常に危険である。速度制限の標識が非常にわかりづらい箇所に設置されており、通行車は気づいていないと思われる所以、警察と調整中とのこと。このことに対して市議会議員は気づかないのか？問題意識はないのかとの厳しい御指摘であった。御指摘のとおり地元議員として気づくべき案件であり、自分の未熟さを痛感した次第である。

普段から何気なく通行するのではなく、何か問題はないか、不都合はないかと言った目線での観察力の醸成が必要であり、普段あまり通行しない道路を定期的に意図して通行してみるなどの配慮も必要と考える。

また一方では、おだぎり議員からの説明のように、議員も万能という訳ではないため、市民の方との情報共有や連携がより重要になってくる。そのためには、やはり普段から地元の集まりに頻繁に顔を出し、会話し、お困り事を聞き取りして行くという地道な行動に尽きるとあらためて実感した。大変良い学びの機会であったと思う。

○中村彰男議員

議会広報広聴特別委員会、桑畠伴子委員長を先頭に大変お疲れ様でした。回を重ねての打ち合わせ、当日の会場設営、一般席の円形型の席の設営、参加者のお迎えについての新たな取り入れは、素晴らしい。第1部での「議会とは何か」についての趣旨説明は、参加者に分かりやすく理解していただけたかと思います。第2部では、交通・防災・環境・地域活動など多岐にわたる意見が寄せられ、千葉県柏土木事務所管轄の新橋に伴う完成は2年後、4車線道路として整備されます。新消防署の上部交差点改良・交通安全対策については、関係機関に強く要望してまいります。

なお、参考までにと思いますが、信号機設置については、公安委員会・警察の所管であり、千葉県全体では、新設信号機は、年間10機程度であります。本日いただきました御質疑また御意見を、しっかりと受け止めさせていただきながら、これからも一生懸命頑張ってまいる覚悟でございます。

○森田洋一議員

- ・全体としては、まとまった感、みんなでやろうといった雰囲気があり、前年度より改善された点が多いと思う。
- ・第1部の内容がわかりやすかったし、第2部の意見交換もこうしたらよくなるといった内容が多く充実していたと感じる。司会進行や全体の統括、役割分担それぞれ、責任もって実施、大変よい報告会と思う。
- ・市役所を会場にするメリットは、委員会室の使い勝手がよく移動しやすい、デメリットは、準備に手間がかかる点と考える。
- ・次年度は、第2部のみをひとつの会場で実施し、来場者に自由に部屋を移ってもらう方式を検討してもよいと考える。発表準備や資料作成時間をかけるよりも、交流に重点を置いてもいいと思う。
- ・報告会という形式にこだわらず、意見交換の場というような気軽な感じの方がよいと思う。4班体制で実施するならば、一會場で、2時間程度の方が市民も数か所、短時間でまわれるし、議員にとっても、総がかりで準備と実施ができ、一気に終わるのでメ

リットがあると感じる。

- ・なるべく、新人議員の考え方を中心に実施した方が、斬新なアイデアが出やすいのではないか。
- ・いろいろな方法を試して、それでも、達成感がないと感じた時は、報告会の役割が終焉と判断し、思い切って廃止してもよいと思う。
- ・アイデアができる間は、1年かけて準備して、全員参加型でやるのがよいのではないか、今年に関しては、そう感じた。

○近藤みほ議員

議会報告会冒頭では、流山市議会の女性比率が21%から32%へと上がったことが報告されました。10年前の議会を知る私から見ても、議会全体の「空気の変化（風通しのよさ）」を強く感じており、生活に近い視点の発言が増え、対立より対話を重んじる姿勢が広がっていることは、多様性がもたらす大きな力だと思います。

一方で、住民の方々の声に対しては、世代を超えた意見交換の難しさを感じられました。若い参加者のアンケートからは「苦言が多く、建設的な対話になりにくい」という声が寄せられたからです。背景には世代ごとに異なるコミュニケーションの常識や、行政と市民の間にある情報格差があるのだと改めて感じました。

「なぜできないのか」という理由には、法律や権限、時間や予算の制約が潜んでいることも少なくありません。私たちのような、住民に近い議員こそ説明をし、論点整理に貢献できたらと感じました。住民の皆さまからの問題提起は、私たち議員が気づけなかった、あるいは勉強不足により優先度を落としてしまった課題をあらためて見つめる機会であり、複数の議員が一度に同じ声を共有できる議会報告会は、流山市のよりよいまちづくりを目指す上で大切な場です。

これからも、より多様な世代・立場の方が参加しやすい「流山市議会らしい対話の場」を育てていきたいと思います。御参加くださった皆さま、本当にありがとうございました。

○おだぎりたかし議員

第2部は小さいグループで自由闊達な意見交換ができて良かった。

第1部は発表者以外、発言する素振りもなく、自分ごととして参加するためにも、全員で…という事は元の形に変えた方が良いかと思う。

○桑畠伴子議員

私が議員となってから、今回で2回目となる、議員28名が一堂に会して行う報告会が開催されました。

市民の皆様にとっては、全議員に対して「聞いてほしい」「伝えたい」「考えてほしい」と思うことを直接伝える貴重な機会となり、大変喜ばれています。

グループに分かれての意見交換会では、参加者と議員との間で丁寧な対話が行われ、有意義な意見交換ができたと感じています。良い意見を聞くことができたと思っています。

一方で、今回の課題としては、予想よりも参加者が少なかった事が挙げられます。

また、会場の選定についても、より多くの市民が参加しやすい環境を整えるために、今後の検討が必要だと感じました。